株主メモ
MEMO

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日（当事業年度の中間配当の予定はございません）
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ（http://www.fujipream.co.jp/）に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、 日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777（通話料無料）

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フジプレアムと社会を結ぶ情報誌
PRE【プレ】

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様に適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。

FUJI PREAM フジプレアム株式会社 www.fujipream.co.jp/
〒671-2216 兵庫県姫路市飾西38番地1
TEL079-266-6161(代) FAX079-266-6738

FUJI PREAM
JASDAQ 証券コード：4237

PRE

フジプレアムと
社会を結ぶ情報誌【プレ】

VOL.41
第38期年次報告書

特集

時代の変化を見据えた新事業部・ELS事業部の発足

新経営体制で挑む、
持続可能な成長企業へ

フジプレアムについて
About Our Company

フジプレアムグループ経営理念　～中期経営ビジョンの体系～

創業の精神

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大いなる「財」なり
自然は大いなる「恵」なり。
全てに対して大いなる「感謝」

経営理念

存在意義	**「共存・共生・共産」**の理念で、ステークホルダーを始め、持続可能な住みよい社会の発展に貢献する
経営の姿勢	二つとない(**不二**)時代に先駆けて(pre)存在し(am)進化し続ける企業を目指す
事業行動の指針	**「誠意」**と**「不可能への挑戦」**の精神をスローガンに未来を切り開く事業を手がける

ステークホルダーに対する姿勢　～ステークホルダーとの関係性を理解する～

一人一人の尊厳と価値が認められ、
従業員が家族に対する責任を
果たすことができる会社

地域社会
地域社会の発展、健康、教育の改善に寄与する活動に参画し、地元に愛される会社

株主様
企業価値を持続的に向上できる会社

お客様
共に新領域に挑む共創関係となれる会社

株主の皆様へ
To Our Shareholders

光都工場　光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

精密貼合市場の
グローバルリーディングカンパニーを目指す。

株主、投資家の皆様には、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素よりフジプレアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第３８期(令和２年３月期)決算報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。
当社を取巻くビジネス環境は、消費税増税の影響による実質ＧＤＰ成長率の大幅な鈍化、新型コロナウイルスの感染拡大により国内外の経済活動が冷え込む等、景気の先行きは急速に悪化する状況となっております。

このような環境の中、自動車業界あるいは医療機器業界向け等の、高付加価値マーケットからの当社への引合いが順調に推移しております。精密貼合技術やメカトロニクス技術を複合的に活用、新規生産設備の導入による生産の高度化を実施することにより、難易度の高い技術を求められる用途製品の開発等に取組んでおります。

また、本年４月より社内体制の見直しを実施しております。技術本部を設置し、開発スピードを上げ、営業本部におきましては市場トレンドに的確に対応する体制としております。更に、太陽電池事業を発展させ、幅広い環境に配慮した事業領域に対応を行ってまいります。

今後、当社といたしましては、変革のスピードを加速させ、グローバルリーディングカンパニーを目指してまいります。
株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長　松本倫長

特集

新経営体制で挑む、持続可能な成長企業へ

～時代の変化を見据えた新事業部･ELS事業部の発足～

さらなる成長を見据えた フジプレアムの新経営体制

新型コロナウイルスの影響を受けて世の中が大きく変わろうとしているなかで、
フジプレアムは2020年4月1日付より、新経営体制及び新執行体制へと移行しました。
常に時代のニーズを先取りして先進の技術を提供し続けてきた強みを活かし、
さらなる成長へとつながる一歩を踏み出しました。

フジプレアムの強みを活かすために 技術と営業を一元化。

私たちフジプレアムは、精密貼合技術をはじめ様々な先端技術を活かした事業を展開する中で、2020年4月1日付にて経営体制を見直し新たな執行体制をスタートさせました。さらなる成長と発展に向け、グローバルリーディングカンパニーへの変革を加速させるため技術の高度化とグローバル化を軸に、部門レベルでの体制を再編した経営体制となります。そのポイントは大きく3つ、営業の一元化、技術の一元化、そしてELS事業部の発足です。

まず営業の一元化ですが、これまでファインテック事業部やメカトロニクス事業部など、各事業部で独自に行っていた営業活動を見直し、新たに設けた営業本部のもと、東京営業本部を第1営業部に改称し、メカトロニクス事業部の営業機能を独立させて第2営業部を新設しました。多様化する市場トレンドに対応できるよう事業部間の営業リソースを一元化し、シナジーを高めることで幅広い営業活動の実現を目指します。

開発スピードの向上を目指し、社長自ら技術本部長を兼務。

私たちの強みである先端技術には、常に高度化と高速化が求められます。そこで今回の新経営体制では、今以上に開発スピードを上げるため、技術本部を新設し、さらに技術本部長を社長自らが兼務することにいたしました。

昨今の働き方改革により労働時間は限定されます。限られた時間の中で従来の開発スピードを持続させ、さらに加速させるために、投資判断を早める決断をしました。例えば新たな設備開発の投資判断に3ヶ月を要していたものを1ヶ月に縮めることができれば必然的に開発スピードは早まります。社長自らが本部長となることで投資判断までの期間を短縮できるようになります。

近年、市場の変化するスピードは日に日に早まっており、マーケットで必要になる前に技術開発が求められます。現在の開発がビジネスチャンスを逃すほど遅れをとっているわけではありませんが、常に市場を先読みして先手を打つための環境を整備することは、貼合技術のリーディングカンパニーであるフジプレアムにとって必須の取り組みと言えるでしょう。

代表取締役社長 松本倫長

主要組織体制
（2020年4月1日時点）

- 代表取締役社長
  - 代表取締役専務
    - 技術本部
      - 研究開発室
      - 技術開発部
    - 生産本部
      - ファインテック事業部
      - メカトロニクス事業部
      - ELS事業部
    - 営業本部
      - 第1営業部
      - 第2営業部
    - 管理本部

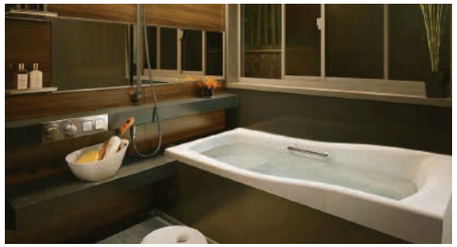
特集

新経営体制で挑む、持続可能な成長企業へ

～時代の変化を見据えた新事業部・ELS事業部の発足～

より幅広い環境に配慮した事業領域に対応するELS事業部。

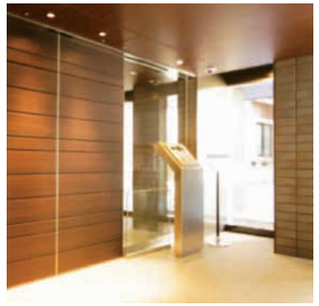
今回新設されたELS事業部は、「Ecology & Living Space（エコロジー＆リビングスペース）」の略となります。太陽電池事業を行うソーラープロセス事業部が、環境に配慮したより幅広い事業領域に対応するため、発展改称することといたしました。
ソーラープロセス事業部において太陽電池事業で培ってきた技術やノウハウを活用し、環境への配慮を自然エネルギーだけでなく住空間へと展開すること、それがELS事業部のビジョンです。社内外に向けて広義な意味合いでの環境貢献のあり方を明確に発信することで、当社としてもビジネスチャンスが広がると捉えています。



暮らしの中の見えないところにフジプレアムの技術がある。

ELS事業部が取り組むリビングスペースとは「住空間」の意味ですが、それを「人がいる場所」と解釈することで事業領域は広がっていきます。たとえば、近年案件が増加しているモビリティ事業も環境住空間と捉えています。住宅で言えばガラスなどの建材、浴室のモニター、冷蔵庫のガラストップなどがあります。産業市場では、駅のホーム柵、自動ドア、ガラスパーテーション、エスカレーターなどに私たちの技術が活かされています。

今、市場は目まぐるしく変化し、テクノロジーの変化量が大きい時代です。移動通信システムのさらなる高度化を実現する5G（第5世代移動通信システム）により、暮らしの中にIoTが今以上に普及することでしょう。私たちの技術はそこから派生する製品群に対応するものづくりを実践しています。そうした時代背景を含めて明らかに暮らしが変化していく中で、私たちの技術は何を解決するのかが課題となっています。そこで幅広くビジネスチャンスを得るために間口を広げたのが、今回の新経営体制及び新執行体制への移行の狙いとなります。

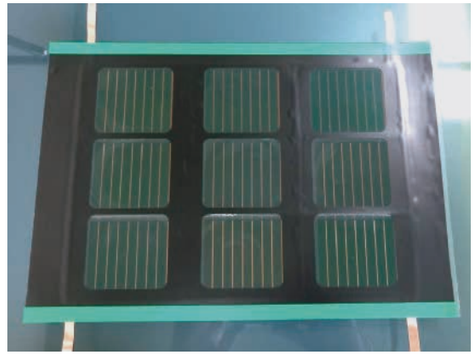


環境マーケットの開拓で、持続可能な成長企業へ。

ソーラープロセス事業部からELS事業部への発展改称は、太陽電池事業からの脱却を意図しています。とは言え、自然エネルギーの重要性はますます高まっていく中、太陽電池の需要も新たな分野で継続していきますし、さらなる進化も視野に入れています。

その取り組みの一つが、京都大学とともに急ピッチで開発を進めている「ペロブスカイト太陽電池」です。次世代の太陽電池として注目されており、薄く曲がるフィルム型であるこの電池は、スマートウォッチなどのウェアラブル端末や災害時の携行型テントなどへの応用が期待されており、2年後の実用化に向けて着実に開発が進んでいます。
SDGs（持続可能な開発目標）の普及など、環境への貢献はどの企業にも欠かせない命題です。

この度の新たな組織体制により、フジプレアムは環境保全に貢献できる最先端の技術開発に積極的に取り組んでいきます。



ESG最・前・線 フジプレアムのESGへの取り組み

人材育成編

フジプレアム海外実習生　経過報告　２期生入社

令和2年１月２３日にベトナム人実習生６名（男性３名・女性３名）が、２期生として入社しました。

主な業務は、梱包作業を担当しており、他の社員と積極的にコミュニケーションをとるなどして、毎日笑顔で勤務しています。更に、帰宅後は家事を分担し、全員で日本語検定試験の合格を目指して毎晩勉強を頑張っています。彼らの意欲的な姿は、日本人社員に対しても大きな刺激となり、職場全体が活性化されています。

休日は、コロナウイルス感染症拡大の影響で遠出は控えていますが、周辺のスーパーや広場への外出や、寮での食事を楽しんでいます。環境の変化や感染症に対する不安はありますが、業務・生活において面倒見の良い１期生がこまめに声をかけてくれており、２期生にとっては心強く頼もしい存在になっています。自分たちも早く１期生のように成長したい！と希望にあふれた彼らを今後も温かく見守っていきたいと思います。

フジプレアムは引き続き海外実習生の成長を支援し、制度を通じて国際貢献、国際協力に取り組んでまいります。

トピックス

Topics

TOPICS 01

今年度の入社式を実施

新入社員５人を迎え、令和２年度の入社式を４月１日に開催いたしました。今年は新型コロナウイルスの影響を受けて感染予防対策を徹底した中で執り行われました。松本社長の激励の挨拶に、新入社員は「厳しい環境の中入社式を迎えられたことに感謝し、新社会人として身の引き締まる思いです。日々精進してまいります。」と抱負を述べました。

2019 8 August

2020 4 April

TOPICS 02

令和元年度 第50回 全国中学校柔道大会に協賛

令和元年8月17日～20日に、第50回全国中学校柔道大会が、8年ぶりに姫路市において開催されました。

TOPICS 03

防塵服と マスクを寄贈

新型コロナウイルスに対応する医療従事者を支援するため、令和2年4月24日に、姫路赤十字病院に防塵服150着とマスク2,500枚を寄贈いたしました。

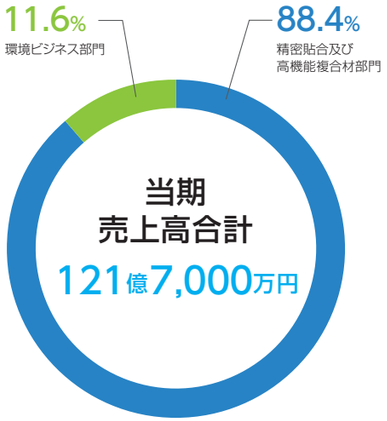
セグメント情報
Segment Information

親会社株主に帰属する当期純利益3億8,500万円確保

当連結会計年度におけるわが国経済は、国内での雇用情勢の回復基調が続いておりましたが、令和元年10月1日より施行の消費税増税の影響により、実質GDP成長率は大幅に鈍化いたしました。更に、令和2年に入ってからの新型コロナウイルスの感染拡大により、国内外の経済活動が急速に冷え込む等、景気の先行きは急速に悪化する状況となっております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門を取り巻く環境におきましては、中国の電子産業分野の不安定な状況の影響を受けつつも、自動車業界あるいは医療機器業界向け等の、高付加価値マーケットからの引合いが順調に推移しております。一方、環境ビジネス部門におきましては、国内再生可能エネルギー市場における制度変更の影響により、引き続き厳しい市場環境となりました。

この結果、当連結会計年度における当社グループの連結業績は、売上高12,170百万円(前年同期比6.4%増)、営業利益345百万円(同13.8%減)、経常利益362百万円(同16.0%減)を計上いたしました。また、受取解決金300百万円等を特別利益に、投資有価証券評価損57百万円等を特別損失に計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は385百万円(同893.0%増)となりました。



精密貼合及び高機能複合材部門

第38期 売上高
107億5,700万円

国内外におけるディスプレイ・タッチパネル市場は、スマートフォン向け市場の成長率が鈍化する一方で、車載用途市場が堅調に拡大しております。また、大型モニター市場、デジタルサイネージを中心としたパブリックディスプレイ市場も拡大しており、市場全体としては引き続き成長が見込まれます。一方で、テレビ用途を中心とした製品価格の下落が続いていること等、多くの用途で価格競争が激しくなる傾向にあります。このような市場の変化の中、精密貼合技術やメカトロニクス技術を複合的に活用、新規生産設備の導入による生産の高度化を実施することにより、難易度の高い技術を求められる用途製品の開発に取組んでおります。更に、独自の技術を活かした車載関連ビジネス、そして新素材加工事業にも注力、ロボット技術等メカトロニクス技術を応用したファクトリーオートメーションビジネスへの取組みも順調に推移してまいりました。

この結果、売上高10,757百万円(前年同期比8.1%増)、営業利益389百万円(同21.4%増)となりました。

環境ビジネス部門

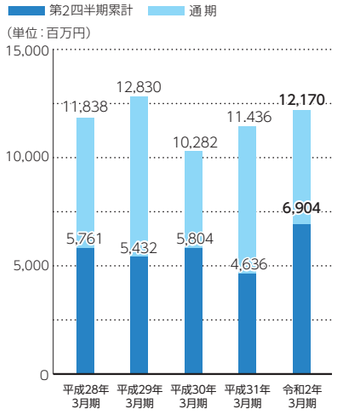
第38期 売上高
14億1,200万円

太陽電池の国内市場は、固定価格買取制度の見直しと買取価格の低下、また、海外生産品による価格競争の激化により、産業用市場の環境が一層厳しさを増しました。また、OEM供給品も生産量の拡大を目指し取組んでまいりましたが、市場環境の悪化の影響を受けております。このような状況下、OEM供給品については製品開発・用途開拓等の開発要素が大きいものに注力、更にメンテナンス市場開拓も推進してまいりました。

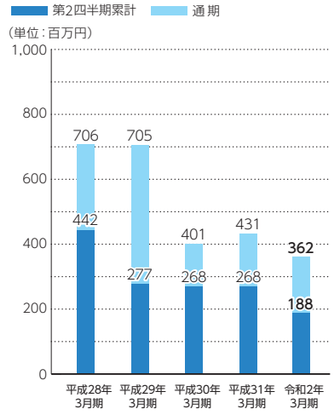
この結果、売上高1,412百万円(前年同期比5.1%減)、営業損失49百万円(前連結会計年度は74百万円の営業利益)となりました。

財務ハイライト
Financial Highlight

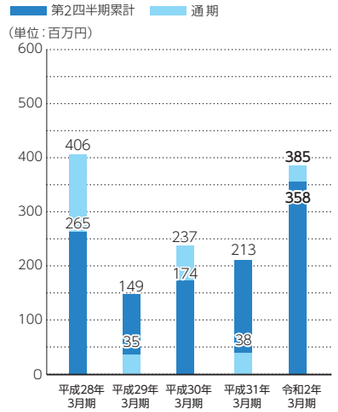
売上高



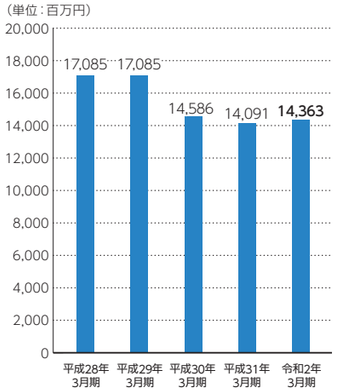
経常利益



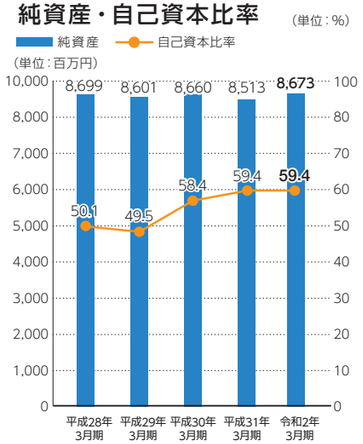
親会社株主に帰属する純利益



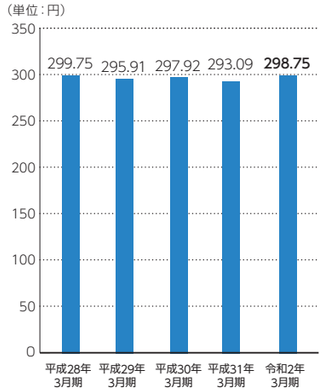
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

（単位：千円）

科目		当期（令和2年3月31日）	前期（平成31年3月31日）
資産の部	流動資産	6,516,080	6,303,731
	現金及び預金	3,546,381	3,467,603
	受取手形及び売掛金	1,850,303	1,488,750
	商品及び製品	154,395	267,731
	仕掛品	585,059	620,056
	原材料及び貯蔵品	363,889	425,250
	その他	16,052	34,338
	固定資産	7,847,801	7,787,941
	有形固定資産	7,342,966	7,188,328
	無形固定資産	3,385	3,468
	投資その他の資産	501,448	596,144
資産合計		14,363,881	14,091,673

（単位：千円）

科目		当期（令和2年3月31日）	前期（平成31年3月31日）
負債の部	流動負債	3,583,112	3,791,084
	支払手形及び買掛金	977,002	1,163,928
	短期借入金	1,830,000	1,830,000
	1年内返済予定の長期借入金	460,044	567,906
	未払法人税等	150,614	94,024
	賞与引当金	12,442	11,885
	その他	153,009	123,339
	固定負債	2,107,627	1,787,390
	長期借入金	2,071,536	1,749,914
	その他	36,091	37,476
	負債合計	5,690,740	5,578,474
純資産の部	株主資本	8,548,053	8,334,333
	資本金	2,000,007	2,000,007
	資本剰余金	2,440,803	2,440,803
	利益剰余金	4,971,132	4,757,413
	自己株式	△863,890	△863,890
	その他の包括利益累計額	△11,203	40,745
	非支配株主持分	136,291	138,118
	純資産合計	8,673,141	8,513,198
負債純資産合計		14,363,881	14,091,673

連結損益計算書

（単位：千円）

科目	当期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）	前期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）
売上高	12,170,235	11,436,754
売上原価	10,973,190	10,174,063
売上総利益	1,197,044	1,262,691
販売費及び一般管理費	851,907	862,201
営業利益	345,136	400,490
営業外収益	30,151	39,486
営業外費用	12,924	8,801
経常利益	362,362	431,175
特別利益	328,673	2,043
特別損失	112,402	406,891
税金等調整前当期純利益	578,633	26,327
法人税、住民税及び事業税	144,329	77,715
法人税等調整額	50,962	△80,553
当期純利益	383,342	29,165
非支配株主に帰属する当期純損失（△）	△1,826	△9,621
親会社株主に帰属する当期純利益	385,168	38,787

連結包括利益計算書

（単位：千円）

科目	当期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）	前期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）
当期純利益	383,342	29,165
その他の包括利益	△51,949	△5,432
その他有価証券評価差額金	△29,599	△4,749
為替換算調整勘定	△22,350	△683
包括利益	331,392	23,732

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科目	当期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）	前期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	423,156	1,009,441
投資活動によるキャッシュ・フロー	△380,721	△514,743
財務活動によるキャッシュ・フロー	40,843	△831,912
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,041	17,025
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	78,236	△320,188
現金及び現金同等物の期首残高	3,417,603	3,737,792
現金及び現金同等物の期末残高	3,495,840	3,417,603

Profile

会社概要

（令和2年3月31日現在）

商号	フジプレアム株式会社 Fujipream Corporation（英）
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業　他
従業員数	238名（連結、臨時雇用を含む）
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京営業本部
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社（設立：平成13年4月）
主要取引銀行	三菱UFJ銀行／みずほ銀行

取締役及び監査役

（令和2年3月31日現在）

代表取締役社長	松本　倫長
代表取締役専務	名村　信彦
取締役	木村　裕史（社外）
取締役	森田　晃史
常勤監査役	牛尾　哲之
監査役	中川　康徳（社外）
監査役	田島　宏一（社外）

株式の分布状況

（令和2年3月31日現在）

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	4,216名

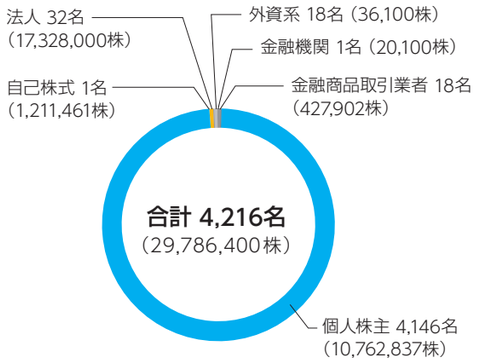
大株主の状況

（令和2年3月31日現在）

フォローウインド株式会社	12,092,700株
松本　倫長	2,441,400株
松本　庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
日亜化学工業株式会社	1,425,000株
フジプレアム株式会社	1,211,461株
リンテック株式会社	936,000株
AGC株式会社	641,600株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本　守雄	277,400株

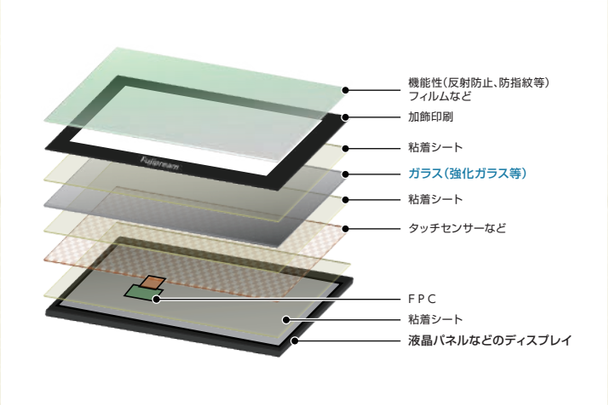
株式分布状況

（令和2年3月31日現在）



キーワード解説 vol.1

先端産業を支える
フジプレアムの独自技術を
キーワードで解説するシリーズ

貼合（てんごう）貼り合わせ。
フジプレアムが得意とする精密貼合技術とは、一般的な加工技術である粘着剤による貼り合わせを高度化し、異なる素材を複合化して、新しい機能を創造する最先端テクノロジーです。従来の概念・技術を超えた精密貼合の品質の高さは、ディスプレイ・タッチパネル業界において、国内外の市場で高い評価を得ています。

ディスプレイデバイスには、各種の光学フィルムが使用されており、その性能は精密貼合技術の質によって大きく左右されます。フジプレアムの精密貼合技術は、テレビ、スマートフォン、タブレット、ノートパソコン、カーナビゲーションなど国内外の市場で高い評価を得ています。
画像を美しく安全に見せる高精度な技術と、徹底した品質管理体制で信頼をいただき、国内外の大手家電メーカーをはじめ数多くの企業に製品を提供中です。
さらに、培ってきた信頼と実績をベースに、新技術や新製品に関する試作対応など、新規事業へのチャレンジにも積極的に取り組んでいます。